

(資料3)

旧中七木綿本店主屋（旧事務所）、南蔵、長屋門、塀、作業所・寄宿舍、北蔵（きゅうなかしちもめんほんてんしゅおく（きゅうじむしょ）、みなみぐら、ながやもん、へい、さぎょうしょ・きしゅくしゃ、きたぐら）

員数：6棟

所在地：知多市岡田字開戸 28、28-1

所有者：個人

1 登録理由

旧中七木綿本店主屋（旧事務所）

1階は旧事務所、2階には接客用の二間が残し、起りの付いた屋根と外壁の黒漆喰の外観は風格を表す。

（登録基準：造形の規範となっているもの）

南蔵

敷地西に位置する木綿製品の一時貯蔵蔵で、蔵前と小屋組の牛梁が特徴をなす。

（登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの）

長屋門

東西棟に門・納屋、南北棟に社員の生活部屋を配し、旧道と門前境界の街路景観を形成している。

（登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの）

塀

長屋門の東面に位置し、中七屋号入りの鬼瓦の屋根が付く。長屋門と共に地域の歴史的景観を形成している。

（登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの）

作業所・寄宿舍

東側に木造平屋建で木綿製品を梱包する作業所と、西側に木造2階建の丁稚奉公の寄宿舍があり、往時の姿を偲ばせる。

（登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの）

北蔵

南蔵の北に位置し、南蔵と同様式、同規模の蔵が蔵前でつながり2棟並び建ち、重厚な外観を形成しており、中七木綿が近代の岡田を代表する木綿製造企業であったことを推測させる。

（登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの）

2 概要

旧中七木綿本店主屋（旧事務所）

木造2階建、瓦葺、建築面積 77 m²、建設年代 大正3年（1914）／昭和20年（1945）頃移築

南蔵

土蔵造2階建、瓦葺、建築面積 107 m²、建築年代 大正3年頃（1914）

長屋門

木造平屋建、瓦葺、建築面積 137 m²、建築年代 大正 3 年頃 (1914)

塀

木造、瓦葺、延長 20m、建築年代 大正 3 年頃 (1914)

作業所・寄宿舍

木造平屋建一部 2 階建、瓦葺、建築面積 190 m²、建築年代 大正 3 年頃 (1914) / 増築年不明

北蔵

土蔵造 2 階建、瓦葺、建築面積 78 m²、建築年代 大正 3 年頃 (1914)

旧中七木綿本店は、愛知県知多半島西海岸北部の知多市岡田にあり、名鉄常滑線の長浦駅から東へ約 2.3 km に位置する。知多市岡田の中央部を東西に横断する旧道と、慈雲寺の門前広場とが交わる角地北西側に所在する。

江戸時代より知多地方は木綿の特産地として知られ、岡田は知多木綿集荷の中心地であった。中七木綿本店は、明治 29 年 (1896) に綿布製造会社として設立し、岡田で最初の動力織機を導入し、設備拡大を進め生産量を増やしていった。

大正 4 年 (1915) の新築落成記念の写真では、敷地中央に広い中庭を設け、旧道に面した長屋門、門前広場側に事務所、その東に庭がある。北に作業所・寄宿舍、西に蔵前の付く南蔵と北蔵が配され、旧道と長屋門の間には堀があり、旧道と門前広場の交差する辺りから門前広場へ沿った塀が確認できる。

中七木綿本店主屋 (旧事務所) は、木造 2 階建、入母屋造の棧瓦葺で、^{むく}起り¹の付いた屋根である。便所とその西の木造平屋建の廊下は、棧瓦葺の寄棟造で長屋門と一体をなす。屋根の鬼瓦や廻隅鬼瓦には中七木綿の屋号が入る。

建築当初は長屋門の旧食事室や便所等のある平屋部分と接続し、作業所の南面とも接続していた。

1 階は、伝統的な民家の田の字型間取りを応用した、3 畳・板間 2 畳・事務所 10 畳の三室構成の執務空間として、2 階の二間は来客をもてなす空間として、中七木綿本店の運営管理を担った建造物である。起りの付いた屋根と外壁の黒漆喰は、風格ある佇まいを見せる。

南蔵は、敷地西側境界に接し、工場から搬入された木綿製品を、一時貯蔵するために使用された木綿蔵である。桁行 9.1m、梁間 5.4m で、土蔵造 2 階建、棧瓦葺の切妻造で、鬼瓦に屋号が入る。

南蔵と北蔵とに分かれているが、正面に奥行 2 間の蔵前を付け一体の空間としている。外壁は蔵前が漆喰塗籠で腰は^{たては、めいたばり}2 豎羽目板張、他は漆喰塗籠の上に^{きさらこ}3 簷子下見板張である。

1 階は二室に仕切られ、それぞれに出入口がある。2 階へと上がる階段は南側の室にあり、2 階は一室になる。小屋組は^{うしぼり}4 牛梁に登梁を架けている。

長屋門は、敷地の南・東面に直角に位置する。木造平屋建、棧瓦葺の寄棟造で、事務所と同様に

廻隅の鬼瓦には屋号が入る。道路側の外壁は漆喰塗、腰は簷子下見板張である。東西棟は間口 19m で、観音開きの大戸が付き、脇に潜戸が付く。両脇は納屋である。南北棟は、浴室、旧食事室、事務所、賄い部屋等が並び、社員の生活の場であった。

旧道から多くの牛馬車や人々が入り出した門は建築当初のままの姿で、中七木綿本店の建造物群の中でも、付属する塀と共に、旧道と門前広場界隈の景観に寄与している。

塀は、長屋門から敷地の東側に位置する。当初は旧道と門前広場の交差する辺りから門前広場の北の敷地境まで塀が回されていたが、現在は作業所の南手前で切れている。門前広場と敷地には北側下りの高低差があるため、玉石積の上に塀が乗っている。腰は簷子下見板張、壁は漆喰塗で格子の窓が設けられている。瓦葺切妻屋根に鬼瓦は中七木綿の屋号入りである。長屋門と一体となって旧道と門前広場の景観を形成する工作物である。

作業所・寄宿舎は、主屋（旧事務所）の裏に位置する建物で、南面から向かって右手が作業所、左手が寄宿舎である。

作業所は木造平屋建、棧瓦葺の入母屋屋根である。事務所と同様に鬼瓦には屋号が入っている。外壁は事務所と同じ黒漆喰で仕上げられている。現在の東側の物置では、かつて木綿製品を梱包する作業を行っていたという。西北角の洋室には寄宿舎と通じる出入口が残っている。

寄宿舎は木造 2 階建、棧瓦葺の切妻屋根である。太平洋戦争で軍に接收される以前は丁稚奉公が寄宿していた。2 階は丁稚奉公衆が寝起きした設えが当初のまま残っている。

北蔵は、敷地の西端に、南蔵の北に位置する。南蔵と同様式で同規模の木綿蔵である。内部は間仕切りのない一室である。小屋組も南蔵と同様である。内部の壁には、木綿製品を整理区分するためと思われる墨書文字が残っている。

南蔵と北蔵の二棟建で広い蔵前を持ち、近代の岡田の中でも、有数の木綿製品生産量を誇った証しとなる建造物である。

むく
起り¹：起り破風、屋根など、上が反っていること。

たては めいたばり
堅羽目板張²：堅継目は接ぎ合わせとしたり、目板や敷目板を縦に張り上げて仕上げること。

ささらこ
簷子下見板張³：壁板などを張るときに、^{はがさね}羽重にした下見板の^{おしなち}押縁として、縦に打ちつける細長い木材。

うしぼり
牛梁⁴：桁行方向に入れた太い梁。



旧中七木綿本店 全景 南東から（知多市教育委員会提供）



旧中七木綿本店 主屋（旧事務所）東から
(知多市教育委員会提供)



旧中七木綿本店 南蔵・北蔵 西から
(知多市教育委員会提供)



旧中七木綿本店 南蔵蔵前 南から
(知多市教育委員会提供)

旧中七木綿本店 長屋門 南東から
(知多市教育委員会提供)





旧中七木綿本店 長屋門 北東から
(知多市教育委員会提供)



旧中七木綿本店 塀 東から
(知多市教育委員会提供)



旧中七木綿本店 作業所・寄宿舍 主屋（旧事務所）南から
(知多市教育委員会提供)



旧中七木綿本店 北蔵2階、北東から
(知多市教育委員会提供)